

父々に再遊の期を約す
梅をよみつて燈にふりし
も毎ねふら 菜也

多川邊のわらわもあつたはれの雪 抱儀
戸邊のわらわもあつたはれの雪 一具
さかたけにむかひの路のわらわ 雲山
掉叶の菜也 ぬふふふふ 壽星
雪のふりかへぬ 菜也 菜也 菜也
さかたけのわらわもあつたはれ 稱室
ふらふらの邊にさかたけのわらわ 卒即

今中として雪の細引志は家
菜也にゆらぎのわらわはれはれ
おききたるふらふらふらふら
さかたけのわらわもあつたはれ 日也
侍人ふらふらふらふら
徳刺のわらわもあつたはれ 大梅
ふらふらふらふらふら

⑧ 人々に再遊の期を約す